



小学生の通学の安全と見守り／東部地区の活性化

川里春治議員(政和会)

がら対策に努めていく。

小学生の通学の安全と見守りについて

質問 ①通学路で自転車が歩道を走行するため危険だが対策は。

②下校時の小学生に対する不審者のトラブルについて対策は。

市長 ①今後も道路管理者等との連携を密にしながら、必要に応じて路面標示等による注意喚起を行い、歩道は歩行者優先であることの啓発に努めていく。

教育長 ②学校や警察等と通学路の合同点検を毎年行っているほか、27年度から順次防犯カメラを設置してきた。犯行に及びにくい環境の整備が大切であり、今後も関係者等と連携しながら活用しながら支援していく。

東部地区の活性化に対して

質問 ①地域で行う運動会や公園での祭りの参加状況は。

②東京街道の商店街をさらに活性化させるための考えは。

市長 ①全ては把握していないが、各地域でさまざまな団体がイベントを通じて地域活性化に取り組んでいる。30年7月の納涼夏祭りには千500人が来場したと商店会から聞いている。

②商店会のみならず企画し主体となるイベント事業等に補助を行っている。引き続き都補助金を活用しながら支援していく。



無電柱化を推進しよう／税財源を奪う諸施策に歯どめを

宮寺賢一議員(政和会)

プランの策定を予定している。

無電柱化を推進しよう

質問 ①区画整理、再開発等のまちづくりにおける無電柱化の面的な展開への考えは。

②市の無電柱化推進計画等の策定状況は。

市長 ①面的整備事業は、都市基盤整備とともに電気等ライフラインの新設等を同時に行える。市街地整備の機会を捉えた推進が、今後の安全・安心なまちづくり推進では大変重要である。

②都の無電柱化チャレンジャー事業を活用し将来的な無電柱化の考え方の整理等行っている。31年度には無電柱化チャレンジャー

奪う諸施策に歯どめを

質問 ①法人市民税の一部国税化による市の影響額の総額は。

②ふるさと納税制度は廃止しふるさとクラウドファンディングなど純粋な寄付制度が望ましいとする動きもあるが見解は。

市長 ①11億4千7百万円の減収である。

②ふるさと納税の返礼品競争は制度趣旨に反するものである。自治体クラウドファンディングは、今後寄附金を募るのにふさわしい事業があれば財源確保の手段として活用を図っていく。



ジェンダー平等実現を／有料化に向けごみを減らせるしくみを

日向美砂子議員(生活者ネットワーク)

家庭ごみ有料化に向け市民がごみを減らせるしくみづくりを

ジェンダー平等を実現し誰もが幸せな社会を

質問 ①特定事業主行動計画による効果と課題は。

②セクシュアル・ハラスメントに関する苦情相談窓口及び苦情相談処理委員会設置要綱について、女性の位置づけや第三者調査の追加等、改定への見解は。

市長 ①男性の育児休業と出産介護休暇取得率が増加傾向にあることが効果で、管理職における女性比率の向上が課題である。

②現時点で改定の予定はない。

③市民対象の講座等のほか、職員研修の機会を設けている。

質問 ①説明会で出た要望等に対する改善の取り組みは。

②プラスチック類等の店頭回収をふやすための実施策は。

市長 ①燃やすごみ指定収集袋にカラス対策加工をしたほか集積所収集の一部継続を行った。

②市内スーパーマーケットの取り組みを研究していく。

③3Rに取り組み店舗を広報する仕組みを研究していく。



市民を守る来年度予算／介護拡充／体育館に冷暖房設備を

木村まゆみ議員(日本共産党小平市議団)

市長 ④現在は考えていない。

平成31年度(2019年度)予算は格差と貧困から市民を守る予算に

質問 ①国の経済分析に対し、市民の置かれた現状への認識は。

②子どもの貧困対策について、就学援助の基準を切り下げないことへの見解は。

市長 ①国基準通所型サービスへ移行していると捉えている。

②保険料滞納者への改善策は。

④人介介護施設等での低所得の高齢者対策拡充ができないか。

質問 ①総合事業を開始したこと、従来の通所介護を利用できなくなった人数は。

市長 ①国基準通所型サービスへ移行していると捉えている。

②資力不足の滞納者が多い。分割納付や生活保護担当への案内など丁寧な対応に努めている。

国の臨時特例交付金を活用し小・中学校体育館に冷暖房設備を

質問 交付金活用への考えは。教育長 今後研究していく。



家庭ごみ有料化／生活援助サービス多数回利用／ヘルプマーク

吉瀬恵美子議員(日本共産党小平市議団)

来年度4月実施予定の家庭ごみ有料化及び戸別収集について

質問 ①集合住宅のごみ出し困難世帯の戸別収集を実施しては。

②指定収集袋の減免措置の拡充が必要だが、市の見解は。

市長 ①同世帯への支援の必要性を認識している。日常生活の支援とあわせ福祉部門等と連携し、ごみ出しの支援をしていく。

②他市と比較しても妥当と捉えており、現在は考えていない。

介護保険の生活援助サービスの多数回利用について

質問 利用回数基準を上限とすると生活支援利用を制限し、自



協働の推進／グリーンロードマルチシェ構想

さとう悦子議員(生活者ネットワーク)

市民協働をもっと推進し身近に感じられるようにするために

質問 ①市が協働を推進する理由は何か。

②協働推進の指針を見直す理由と、見直し内容の方向性は。

市長 ①自治基本条例において、互いに協力してまちづくりに取り組むと規定し、協働等を通じたまちづくりを目指している。

②策定から10年経過し、さらなる推進を目的に、より実践的な協働の内容で検討している。

③地域課題等の解決に向けて市民提案の協働事業も検討する。

マルシェの開催等で小平グリーンロードを魅力アップしよう

質問 ①小平市の農業、農地、緑を守るために何ができるか。

②音楽イベントやマルシェの定期的実施への見解は。

市長 ①農業経営基盤の安定化を図る。また、都市農地の貸借の円滑化に関する法律により、多様な農地利用が期待できる。

②演奏者や、農産物の運搬と販売の人員確保等の課題がある。

③簡易調査の結果、再生は可能だが、今後詳細な調査を要し、費用対効果も含め検討していく。



カラス対策ごみ袋の開発のポイント……カラスの視細胞には、油球という物質があります。この油球は、赤、黄色、青緑に対する感度がとりわけ高く、ある特定の波長を反射する黄色系のごみ袋では、カラスからは黄色が際立って見えてしまい、内容物(えさ)が視認できなくなっているものと推察されます。効果は条件、環境により異なります。

カラス対策に黄色の加工を行った燃やすごみ指定収集袋



子どもが担う家族介護／南西部地域にコミタクを走らそう

山崎とも子議員(生活者ネットワーク)

子どもや若者が担う家族介護、ヤングケアラーについて

質問 ①教員向けにヤングケアラーについて研修を行う予定は。

②学校と市の関係課が連携し対応していくことが必要と考えが市の見解は。

③ティーンズ相談室ユッカでヤングケアラーに対応できるか。

教育長 ①現在予定はないが機会を捉えてヤングケアラーへの対応について情報提供していく。

②学校だけで解決することは困難なため関係課との連携は欠かせないと認識している。

切望される南西部地域のコミニティタクシーについて

質問 ①国分寺市のぶんバスなど近くを走る路線との連携は。

②立川通り沿いのスーパーマーケットをルートに組み込み、買い物の足として使えないか。

市長 ①鷹の台駅西側ルートは、ぶんバス北町ルートと停留所を共有しており市境を越えた移動ができる。また、民間路線バスの停留所と接している停留所があり利便性の向上が期待できる。

②利用者等からの要望もあることから、継続的な運行への移行を検討する中で、考える会とともに検討していく。